

📍 金峯山寺蔵王堂奥殿本地堂



2025 3.28 (金) ▶ 5.6 (火・祝)

蔵王堂拝観者無料

午前8時30分～午後4時00分

篠原勝之 (KUMA) 作品展

薄暗い蔵王堂に這入ると、薄明りの中に青く浮かびあがる三つの下半身が見えた。吸い寄せられるように本尊を仰ぎ見た。8メートル近くもある巨大な三体の蔵王権現が青黒の肌に金色の髪の毛を逆立てこちらを見下ろしている。三鉈杵を振り上げる右手は天の悪魔を追払い、印を組んだ左手でヒトらの煩惱を断ち切る。蹴り上げる右足で天と地の間の悪魔を消し去り、左足は大地をしっかりと踏みしめている。

今なお続く末法の世を見ずえる慈悲の導きのお姿に、オレは合掌していた。気が付くとすぐ隣で金峯山寺の五條管長が般若心経を唱えてくれた。後ろで法螺貝が吠えている。いつしか、釈迦如来の目も優しく感じたのだった。

お堂に並んだ「空っぽ」は、オレにとっての「ごんげんさま」である。

篠原勝之 (KUMA)



1942年、北海道出身。17歳で上京。武蔵野美術大学中退後、グラフィックデザイナー、絵本作家や、唐十郎主宰の「状況劇場」でポスター・舞台美術を担当。

1980年代から、鉄などを素材に自然に呼応するダイナミックな造形をモンゴル、サハラ砂漠など国内外で精力的に制作。テレビの紀行・ドキュメンタリー番組も多数放送され、「クマさん」の愛称で親しまれる。

2021年からは奈良に拠点を移し、自らの手で土をつくらせて器を焼いている。

ごんげんさま

篠原勝之：書